

キヤノンメディカルシステムズ自動分析装置最新の動向

◎岡井 太志¹⁾

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 国内営業本部 検体検査システム営業部¹⁾

弊社は2018年1月4日より社名を「東芝メディカルシステムズ」から「キヤノンメディカルシステムズ」に変更し、新たなスタートを切りました。これからもお客様とともに歩み・成長していく企業を目指し、

「Made for Life」の経営スローガンにもとづいて、医療に貢献してまいります。

キヤノンメディカルシステムズ(株)はお客様のご要望に沿った検査室の運用をご提案するため、幅広い製品ラインアップを取り揃え、多くのお客様にご使用いただいております。

近年、少子高齢化に伴い医療費は削減、医療の質の向上と業務効率化が求められ、医療環境は大きく変わってきています。

現在、医療施設は更なる専門性の重視、患者サービスの一環として診療前検査やクリニカルパスを導入し、在院期間の短縮と高品質かつ均等な医療の提供を目指しています。そして臨床検査室では、装置自体が高い精度で安定して結果を出せる精度管理はもちろんのこと、患者様の待ち時間を短縮のために装置の集約化や業務効率化を図ることで、チーム医療にも貢献し、診療支援を行っています。

臨床検査技師の業務拡大に伴う人員不足の中、自動分析装置では簡便な操作性、メンテナンス性や検査室内の限られた環境下での材料の有効活用が求められています。

また、近年の糖尿病患者の増加を受けて、HbA1c測定装置集約化で、糖尿病のスクリーニング検査として行うことが注目されております。このようなニーズに柔軟に対応するため日々、製品の開発に取り組んでおります。

今回の講演ではキヤノンメディカルシステムズの自動分析装置最新動向について弊社の取り組みを紹介いたします。